

□議員名：松尾数則

1 山陽小野田市教育行政のあり方について

論点	通学路の安全確保について取り組み状況を聞く。
回答	「山陽小野田市通学路交通安全プログラム」を策定し、危険箇所の抽出、道路管理者、警察、通学路アドバイザー、学校関係者、市教委による合同点検の実施、安全対策の実施、対策の効果の把握をPDCAサイクルにより、評価、改善に努めている。

論点	小規模校の取り組みについて考えを聞きたい。
回答	他校から希望者を募り、小規模校に登校させる特認校制度、学校選択制、学校区の再編などについては研究中であるが、現時点では導入の予定はない。ただし、厚陽小中学校については、教育課程の特例の制度を活用し、特色ある学校として位置づけ、希望により他校区からも通学できるようにすることを検討している。

論点	不登校の現状について聞く。
回答	昨年の不登校児童生徒は55名で、登校する、または登校できるようになった児童生徒は18名、継続した登校には至らないが、好ましい変化が見られた児童生徒が17名、合計で6割を超える児童生徒が好ましい状況へと変化している。今後も関係機関と連携して、継続的な取り組みを続ける。

論点	不登校の対策について聞く。
回答	不登校の原因は多彩で、その状況も多様だが、中には、一つの状況として不登校になる理由に学習状況が自分の思うようにならないという場合もある。不登校によりさらにその状況が増す可能性もあり、学校としては、特別に個別指導する等学校の状況を伝えているが、なかなか難しい現状である。

論点	いじめの現状と対策について聞く。
回答	いじめの認知件数は平成25年度32件、平成26年度52件と増加し、平成27年度は46件とやや減少している。いじめの問題については、初期段階のものを含めて、学校が積極的にいじめを認知し、その解消に向けて取り組み、いじめを深刻させない対応が重要と考えている。

2 にぎわいと活力に満ちたまちづくりについて

論点	一次産業を活性化する方法、方針を聞く。
回答	一次産業は後継者の確保と定着が喫緊の課題となっている。関係機関の新規就業ガイダンス等情報提供等を行っている。加えて、地域特産品の商品開発とブランド化を進め、販路の開拓、拡大を促進し、関係機関や関係団体ともさらに連携を強化し、魅力と活力のある産業振興につなげていく。

論点	6次産業化について聞く。
回答	6次産業化については、農商工の連携であるとか地産地消の取り組みというものを面的に進める必要がある。昨年、寝太郎カボチャを利用し、高校生考案のスイーツの試作品をつくった。このような取り組みを通じて6次産業化への可能性、実現性について検討していく。

論点	新幹線厚狭駅のコンパクトなまちづくりについて今後の計画を聞く。
回答	「厚狭駅南部地区まちづくり基本計画」を作成し、具体的な取り組みの方針についても検討している。まず、町の魅力を高める必要がある、県とも協議をしながら、基本計画の作成とともに魅力を高め今後、厚狭駅南部地区まちづくり基本計画の素案ができた時点で地元とも協議したい。

論点	コンパクトなまちづくりプロジェクトをいかに厚狭駅商店街の活性化に結びつけるのかを聞く。
回答	現在、コンパクトシティとして、公共施設を今具体的に関係機関と協議を進めているところである。そういう中で、商店街の活性化になぜつながらないか、やはり、人口減少が大きな理由である。そのために、南部地区に居住地区としての公共施設の起爆剤となるものを整備できればと思っている。

論点	小野田駅前地区都市再生整備計画の推進について聞く。
回答	計画に基づいて市道や公園などのインフラ整備や、駅前広場の美装化等の事業を行う。商店街へのアクセスが向上し、駅前商店街通りの通行者数の増加、居住環境が整い計画区域内の居住人口が増加する見込みである。計画策定には、小野田駅前商店街振興組合や小野田駅前商店連盟の皆様の意見を参考にする。

論点	今後の小野田駅前商店街の活性化について聞く。
回答	小野田駅前商店街では、小野田駅前商店連盟、それと、小野田駅前商店街振興組合といった2つの団体が、活気とにぎわいをもたらすための活動を行い、後継者として小野田駅前商店街青年部が活動している。既存の事業とあわせて、引き続き小野田駅前商店街の活性化に向けた取り組みに努める。